

2025年7月18日

報道関係者各位

特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」  
Special Exhibition “Humans and Boats: Maritime Life in Asia and Oceania”  
2025年9月4日(木) ~ 12月9日(火)



民博が所蔵する舟資料（特別展で展示予定）  
（2025年、門田修（海工房）撮影）

## 展示概要

舟はいつ誕生したのでしょうか？

人類史において舟やカヌーの出現とその本格的な利用は、私たちホモ・サピエンス以降だと言われています。本特別展では人類史的な視点から、本館が所蔵してきたアジアやオセアニアの海域世界における多様な舟を紹介します。また暮らしの中での舟にも注目してみました。舟をつくる道具やこぐ道具、<sup>ぎょうろう</sup>漁撈で舟とともに使われる道具、舟による海上交易で運ばれるタカラたち、そしてあの世とこの世を行き来する精神世界における舟の役割。

さあ舟と人類をめぐる旅に出航しましょう！

## 本展の見どころ



民博が所蔵する舟資料（特別展で展示予定）  
（2025年、門田修（海工房）撮影）

## 2. 豊富な映像とユニヴァーサル展示

本特別展では舟の建造や利用、漁撈<sup>ぎょろう</sup>や交易に関する豊富な映像を紹介します。丸木舟や帆船など、航海中の舟から撮影した360度映像を、VR視聴機器を装着して体験してもらうコーナーや、実際に触れることができる手作りのカヌー模型、櫂<sup>かい</sup>、石の斧、カヤックの材料となる皮などを触って体験してもらう展示も行います。



手斧で大木を切るサタワル島の人びと  
（ミクロネシア連邦サタワル島、1975年、  
門田修（海工房）撮影）

## 1. 本邦初公開の多彩な舟たち

1階展示では、人類が最初に建造し、利用した舟は何か？という問いから、樹皮、草、動物の皮、丸木など多様な素材を浮力にし、現代まで利用されてきた舟たちを紹介します。そのほかに古代日本の舟として埴輪<sup>はにわ</sup>や出土した板材に注目しつつ、北太平洋や南太平洋圏に進出した人類が考案し、利用してきた舟たちが勢揃いします。



航海中のチェチェメニ号  
（ミクロネシア、1975年、門田修（海工房）撮影）

## 3. 舟との暮らしや航海を体感できる！

人々が舟を使ってどのように暮らしてきたのかに注目し、手斧などの舟を建造する道具、多様な舟の模型や櫂<sup>かい</sup>、漁撈<sup>ぎょろう</sup>に使われるさまざまな漁具、舟をつかった交易で運ばれるお宝たち、そして霊舟<sup>れいしゅう</sup>などあの世でも活躍する舟たちについて、映像とともに紹介します。

資料点数 約 240 点

## 展示構成

### ■ 1 階

#### 1 古代から受け継がれてきた舟たち

#### 2 日本における古代の舟

担当／宮原千波（総合研究大学院大学人類文化研究コース・  
博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 DC1）

#### 3 北方圏の舟

#### 4 南洋圏の舟

#### 5 日本の舟とその世界

### ■ 2 階

#### 6 舟を造る・飾る

#### 7 模型にみる舟の多様な世界

#### 8 漕ぐ・踊る—多様な<sup>かい</sup>権たち

#### 9 漁撈<sup>ぎょうろう</sup>と舟—漁具にみる機能と造形美

#### 10 交易と舟—島じまをまわる宝たち

担当／門馬一平（国立民族学博物館 特任助教）

#### 11 あの世とこの世をつなぐ舟

### ■ 2 階の体験と映像コーナー

・舟や漁具に触ろう—ユニヴァーサル展示コーナー

・VR 視聴体験コーナー

・関連の映像のシアター



前を向いて立って漕ぐモーケンの人びと  
（ミャンマー・メルギー諸島、2001年、  
門田修（海工房）撮影）



クラカヌーの到着と浜に集まる人びと  
（パプアニューギニア・キタヴァ島、2011年、  
門田修（海工房）撮影）

※担当者名のないコーナーは、全て小野林太郎（国立民族学博物館 教授）が担当します。

## 関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

### みんぱくゼミナール

#### 「アジア・オセアニアの舟と人類——みんぱく舟資料からの検討」

- 会場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)
- 日時** 9月20日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
- 講師** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)
- 定員** 400名
- 参加方法** 当日参加申込みのみ  
参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
- 内容** 人類史における舟の出現と利用は、私たちホモ・サピエンスの誕生以降といわれます。本講演では本館の舟資料よりアジアやオセアニアの舟と人類の歴史や共通性、地域性について考えます。



クラカヌーによる航海の様子  
(パプアニューギニア、2011年、  
門田修 (海工房) 撮影)

#### 「浮かぶ、走る、閉じこめる——乗りものとしての舟、船舶」

- 会場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)
- 日時** 11月15日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
- 講師** 飯田卓 (国立民族学博物館 教授)
- 定員** 400名
- 参加方法** 当日参加申込みのみ  
参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
- 内容** 舟のはたらきは、器 (うつわ) に似ています。舟とは、人が乗れるほど大きな器です。しかし舟には、その他の工夫もほどこされています。写真を見ながら、舟とはなにかを考えてみましょう。



漁撈に使用されていた当時の舟  
(マダガスカル、2008年)

研究公演

「マオリの伝統芸能 カパハカ」

- 会場** みんなくインテリジェントホール（講堂）
- 日時** 9月27日(土) 13:30～15:40 (12:30開場)
- 出演** Ngā Hau E Whā (ナ・ハウ・エ・ファ)
- 司会** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)
- 解説** 小杉世 (大阪大学 教授)、土井冬樹 (天理大学 講師)、  
ピーター・J・マシウス (国立民族学博物館 名誉教授)
- 定員** 400名
- 参加方法** 事前申込制 (先着順) / 要展示観覧券 (一般780円、特別展  
をご覧になる場合は一般1,200円) ※イベント参加費は不要
- 内容** 「カパハカ」の起源は、「ハカ」(戦闘)、両端にボールがついた紐を用いて演じられていた「ポイ」、嘆きの唄「モテアテア」などにあります。植民地化される以前にあった日常的な行為が、今日見られる「カパハカ」へと進化しました。本公演では専門家による解説や参加型のパフォーマンスも用意し、オセアニアの芸能文化を体験していただきます。



ナ・ハウ・エ・ファによるハカの公演風景

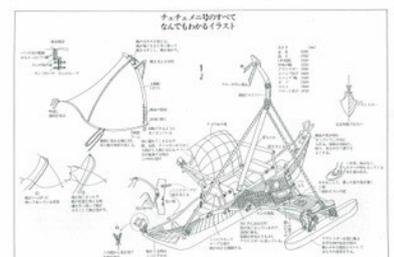
みんなく映画会

「チェチェメ二号の冒険」

- 会場** みんなくインテリジェントホール（講堂）
- 日時** 11月29日(土) 13:30～16:15 (12:30開場)
- 司会** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)
- 解説** 門田修 (映像作家)、関野吉晴 (冒険家)、  
林和代 (サタウル島航海体験者)
- 定員** 350名
- 参加方法** 事前申込制 (先着順) / 要展示観覧券 (一般780円、特別展  
をご覧になる場合は一般1,200円) ※イベント参加費は不要
- 内容** 本作品は国立民族学博物館が所蔵し、オセアニア常設展で開館時より展示してきたチェチェメ二号の3,000キロに及ぶ画期的な航海をその出発から沖縄への到着まで密着して撮影に成功した記録映画です。ナレーションは森繁久彌氏、カメラはその後の民族映像の世界で活躍してきた明石太郎氏らが担当し、1976年の文化庁優秀映画奨励賞、優秀映画鑑賞会持選、キネマ旬報ベストテン第1位を独占した記録映画の記念碑的作品でもあります。



映画チラシ「チェチェメ二号の冒険」



チェチェメニ・イラスト

みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

「舟の人類史——移動・漁・信仰」

**会場** 本館展示場（ナビひろば）  
**日時** 9月14日(日) 14:30～15:15  
**講師** 小野林太郎（国立民族学博物館 教授）  
**定員** なし（ご自由に参加いただけます）  
**参加方法** 要展示観覧券（イベント参加費は不要）  
**内容** 人類史において舟やカヌーの出現とその本格的な利用は、私たちホモ・サピエンス以降だと言われています。本サロンでは人類史的な視点もふまえて、本館が所蔵してきたアジアやオセアニアの海域世界における多様な舟について、展示に触れつつ紹介します。



らんしょとう  
蘭嶼島の沿岸に並ぶタタ舟の風景  
(台湾、1994年、門田修（海工房）撮影)

「古代日本の舟とその特徴——船形埴輪と出土船材からの検討」

**会場** 本館展示場（ナビひろば）  
**日時** 10月5日(日) 14:30～15:30  
**講師** 小野林太郎（国立民族学博物館 教授）、  
宮原千波（総合研究大学院大学人類文化研究コース・博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 DC1）  
**定員** なし（ご自由に参加いただけます）  
**参加方法** 要展示観覧券（イベント参加費は不要）  
**内容** 日本列島では、舟は人々の暮らしに欠かせないものでした。本サロンでは、古代の日本列島で用いられた準構造船と呼ばれる木造船について、古墳に置かれた船をかたどった埴輪や遺跡から出土した船の破片などの考古資料からわかったことをお話しします。



久宝寺遺跡 準構造船出土状況  
(公益財団法人大阪府文化財センター提供)

「宝物の貝と石を探して——オセアニアの海上交易と航海カヌー」

**会場** 本館展示場（ナビひろば）  
**日時** 11月23日(日・祝) 14:30～15:15  
**講師** 門馬一平（国立民族学博物館 特任助教）  
**定員** なし（ご自由に参加いただけます）  
**参加方法** 要展示観覧券（イベント参加費は不要）  
**内容** 珊瑚礁に囲まれた南洋の小さな島々。貝や石の宝物を求めてカヌーで航海する人びとが住んでいます。隔絶された環境で、島と島は、人と人は、どのように繋がっているのでしょうか。TVディレクターから転身した人類学者が写真・映像・実物を交えてお話しします。



カヌーの前で石の宝物を持って  
記念撮影 パプアニューギニアの島にて

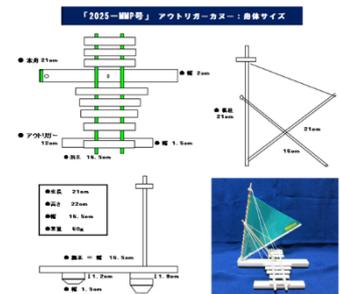
ワークショップ

詳細は決まり次第、順次ホームページで公開いたします。

その他、来場者が参加できるアクティビティイベントも実施します。

「MMPワークショップ アウトリガーカヌー模型を作って帆走させよう！」

**会場** 本館2階第5セミナー室、特別展示館  
**日時** 10月11日(土) 13:00~15:30  
**講師** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)、  
 みんなくミュージアムパートナーズ  
**定員** 12名  
**参加方法** 事前申込制／要特別展示観覧券 (イベント参加費は不要)  
**内容** みんなくミュージアムパートナーズ企画のアウトリガーカヌー模型を製作するワークショップです。完成したら、本館前庭プールにて進水式をおこないます。



製作予定のアウトリガーカヌー模型

「インドネシア・マドゥーラ島の舟模型を工作しよう！」

**会場** 本館2階第5セミナー室、特別展示館  
**日時** 10月12日(日) 10:30~13:00、14:00~16:30の2回  
**講師** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)  
 ジャカルタ海洋博物館スタッフ  
**定員** 各回15名  
**参加方法** 事前申込制／要特別展示観覧券 (イベント参加費は不要)  
**内容** 本特別展で展示予定の多数の舟模型のうち、主に東南アジアで製作・利用されてきた舟を題材に、インドネシアのジャカルタ海洋博物館およびみんなくミュージアムパートナーズと連携して、子供たちを中心とする一般の参加者たちと模型製作を試みます。



ボール紙製の舟模型たち  
(ジャカルタ海洋博物館提供)

「エアードームによる星の航海——オセアニアの伝統航海」

**会場** 本館1階エントランスホール、本館2階セミナー室  
**日時** 10月18日(土)、19日(日)  
 12月6日(土)、7日(日)  
 各日11:00~12:00、13:00~14:00、15:00~16:00  
**講師** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)  
 後藤明 (喜界島サンゴ礁科学研究所・学術顧問)  
**定員** 各回20名  
**参加方法** 事前申込制  
**内容** 本特別展で展示予定のオセアニアにおける航海術を映像で体験してもらいます。使用するエアードームは360度見渡せる映像体験が可能で、海を舞台とする航海に関する高度なリアリティをもつ映像を楽しむことができます。本特別展実行委員の後藤明氏が監修した作品を上映のほか、後藤氏による解説とおして、人びとと海とのかかわりについて実践的に学びます。



本ワークショップで使用予定のエアードームと講師の後藤明氏

「海の暮らしとバスケットリー ——月桃ガンシナーづくり」

会場	本館1階エントランスホール、特別展示館
日時	11月1日(土)、2日(日) 各日13:00~16:00
講師	小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)
指導	池原美智子 (石垣島 やちむん館工房 館長)、 石塚輝美 (石垣島 やちむん館工房 スタッフ)
定員	各日10名
参加方法	事前申込制 (抽選制) / 申込フォームにて / 1回につき1名の応募が可能 参加費500円+要特別展示観覧券
内容	アジアやオセアニアの島々では、さまざまな植物を素材にしたバスケットリーであふれています。たとえば、マットやカヌーの帆は、海辺に多く生息する植物の葉を編んでつくられます。このワークショップでは、月桃を素材にガンシナーをつくることをとおして、海の暮らしについて学びます。



月桃の「ガンシナー」  
(石垣島 やちむん館工房提供)

「縄文さんと石斧で丸木舟をつくろう」

会場	特別展示館地下休憩所
日時	①11月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日) 各日10:00~12:30、13:30~16:00 ②11月29日(土)10:00~16:00 11月30日(日)10:00~15:00
講師	雨宮国弘氏 (縄文大工)、馬淵香 (アシスタント)
定員	各回15名
参加方法	事前申込制
内容	①石斧を使った丸木舟製作の豊富な経験を持つ「縄文さん」こと雨宮国弘氏を講師として迎え、子供たちを中心とする一般の参加者とともに小型丸木舟の製作をすすめます。 ②1日目は、雨宮国弘氏とともに石斧づくりを体験してもらいます。2日目は、1日目に製作した石斧 <small>かい</small> を用いて、櫂 <small>かい</small> をつくります。 丸木舟となる丸太やそれを加工する石斧などの道具に触れることで、舟や海へ親しみを持ち、海の利用のあり方について楽しく学びます。



縄文さん (雨宮氏) による石斧による丸木舟作り (上) と完成した丸木舟例 (下)  
(雨宮国弘氏提供)

友の会講演会

「海を越えた人類の移住と舟——海域アジア・オセアニアの事例から」

- 会場** 本館2階第5セミナー室
- 日時** 10月4日(土)13:30～15:00 (13:00開場)
- 講師** 小野林太郎 (国立民族学博物館 教授)
- 内容** 舟はいつ誕生したのでしょうか？  
カヌーなどの水域を移動する道具の本格的な利用は、私たちホモ・サピエンスの出現以降といわれています。サピエンスが、海域アジアやオセアニアへと進出できた背景として、人間を乗せて水域を超えることのできる舟の存在は重要です。本講演では、そんな舟と人類の歴史を、民博が所蔵する多数の舟資料に基づきながら紹介します。
- 定員** 70名
- 参加方法** ① 会場参加 (第5セミナー室)  
② オンライン (ライブ配信) 参加 ※会員限定  
・会場、オンライン配信ともに事前申込制 (先着順)  
・友の会会員：無料、一般：500円  
※講演会終了後、特別展の見学会をおこないます  
(要特別展示観覧券)
- 問い合わせ** 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)  
電話 06-6877-8893



民博が所蔵する舟資料 (特別展で展示予定)  
(2025年、門田修 (海工房) 撮影)

## 開催概要

展覧会名	特別展「舟と人類ーアジア・オセアニアの海の暮らし」
会場	国立民族学博物館 特別展示館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)
会期	2025年9月4日(木) ～ 12月9日(火)
開館時間	10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日	水曜日
観覧料	<p>一般 1,200円(810円)、大学生 600円(340円)、高校生以下無料</p> <p>※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。</p> <p>* ( )内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方(一般料金)の割引料金(要証明書等)。</p> <p>* 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。</p>
主催	国立民族学博物館
特別協力	<p>船の科学館「海の学びミュージアムサポート」</p> <div style="text-align: center;">  <p>Supported by  </p> </div>
協力	海工房、NIHUグローバル地域研究プログラム海域アジア・オセアニア研究プロジェクト、公益財団法人千里文化財団、国立科学博物館、鳥羽市立海の博物館、南山大学人類学博物館、東大阪市、藤井寺市教育委員会、米原市教育委員会
後援	東南アジア学会、東南アジア考古学会、日本オセアニア学会、ミクロネシア連邦大使館

## 実行委員長 小野 林太郎 (おの りんたろう)

国立民族学博物館学術資源研究開発センター・教授。

専門は海洋考古学、東南アジア・オセアニア人類学で、熱帯島嶼における旧石器時代から歴史時代までの様々な遺跡や水中遺跡を対象とした研究を行っている。主な研究テーマは、人類による海洋適応や島嶼移住の歴史。

主な著書は、『海域世界の地域研究:海民と漁撈の民族考古学』(京都大学学術出版会、2011)、『海の人類史 増補改訂版』(雄山閣、2018)、『海民の移動誌－西太平洋のネットワーク社会』共編著(昭和堂、2018)、『海洋考古学入門－方法と実践』共編著(東海大学出版部、2018)、『図説－世界の水中遺跡』共編著(グラフィック社、2022)、『モノからみる海域アジアとオセアニア－海辺の暮らしと精神文化』(風響社、2024)、『島世界の葬墓制－琉球・東南アジア・オセアニア』(雄山閣、2024)、『Prehistoric Marine Resource Use in the Indo-Pacific Regions』共編著(ANU E Press、2013)、Pleistocene Archaeology-Migration, Technology, and Adaptation 共編著(IntecOpen、2020) など多数。



## 実行委員

飯田 卓 (国立民族学博物館 教授)

丹羽 典生 (国立民族学博物館 教授)

野林 厚志 (国立民族学博物館 教授)

日高 真吾 (国立民族学博物館 教授)

藤井 真一 (国立民族学博物館 助教)

門馬 一平 (国立民族学博物館 特任助教)

ピーター・J・マシウス (国立民族学博物館 名誉教授)

宮原 千波 (総合研究大学院大学人類文化研究コース・博士後期課程／日本学術振興会特別研究員DC1)

秋道 智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター 所長)

石村 智 (東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長)

海部 陽介 (東京大学・東京大学総合研究博物館 教授)

片桐 千亜紀 (沖縄県教育庁文化財課 主幹)

後藤 明 (喜界島サンゴ礁科学研究所 学術顧問)

長津 一史 (東洋大学 教授)

藤田 祐樹 (国立科学博物館 生命史研究部 研究主幹)

明星 つきこ (東洋大学／日本学術振興会特別研究員PD)

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係

Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp)

プレス向けウェブサイト [www.minpaku.ac.jp/press](http://www.minpaku.ac.jp/press)

## 特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」 広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】チチカカ湖のあし舟（ペルー）



【3】牛皮舟（中国）



【4】白樺樹皮のカヌー（カナダ）



【5】インド洋圏のシングルアウトリガー式カヌー  
（マダガスカル）



【6】丸木舟（インド）



【7】筏（オーストラリア）



【8】沖縄のサバニ（日本）



【9】蘭嶼島のタタラ（台湾）



【10】ポリネシアのカツオ釣り用疑似餌針  
（ニュージーランド）



【11】ミクロネシアのカツオ釣り用疑似餌針  
（マーシャル共和国）



【12】舟の建造に使われる貝の斧  
（ミクロネシア連邦共和国）

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課 広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

## 特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」 広報用画像 利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

3組6枚       5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒
-------

【申込先】

E-mail [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp) または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【2】～【12】 国立民族学博物館所蔵

・写真（画像）の過度なトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
Tel : 06-6878-8560 (直通) Fax : 06-6875-0401 E-mail : [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp)